

開始しました。

この正式依頼に先立ち災害医療専門の新潟大学榛沢和彦先生が四月十九日に熊本入りされ、下肢静脈エコーを含めた深部静脈血栓症(DVT)一斉検診を熊本市民病院(橋本洋一郎先生、坂本憲治先生)、熊本赤十字病院(細川浩先生)、熊本大学スタッフと一緒に開始しており、熊本県から学会への依頼に対し四月二十一日に日本循環器学会からの要請で国立循環器病研究センターから専門スタッフが派遣されました。

さらに、日本臨床衛生検査技師会、熊本市工コノミークラス症候群対策チームとも合流し、熊本大学神経内科学講座にもご協力頂き、指示系統が一元化された医師、技師、看護師、行政、学会、支援団体、ボランティア、マスメディアをも含んだ熊本地震血栓症予防プロジェクト(Kumamoto Earthquakes thrombosis and Embolism Protection (KEEP) Project)チームとして、主に避難所での二次的健康被害の予防活動を行ってきました。

その活動の一環として開催しました『熊本地震シンポジウム2017』では、テーマを『熊本地震から学んだこと、伝えたいこと』とし、KEEP Project チームを中心に、全国の医師、技師(特にエコーを担当された日本臨床衛生検査技師)、看護師、学会関連の方、熊本県、熊本市の行政職員、さらには熊本日日新聞等のマスメディアなど、災害に関わられる様々な職種の方々による講演やデ

スカッション、専門技師による下肢静脈エコーによる深部静脈血栓症無料検診、被災されました病院、医院での対応なども含めまして様々な角度から検証し、最終日午後には一般の方々に向けて県民・市民公開講座を行い、一般市民の方にも災害予防の重要性を訴えました。

今回のシンポジウム、市民公開講座は公益財団法人肥後医育振興会様のご支援で行われ、多大なご協力を頂きましたこと、この場をお借りしましてお礼申し上げます。ありがとうございます。震災から二年以上経過しましたが復旧・復興は道半ばであり、KEEP Project としまして定期的な仮設住宅被災地での検診を今でも行っており、引き続きご支援を頂きますと幸いに存じます。

最後になりますが、肥後医育振興会様はじめ、ご協力頂きました皆様の益々のご発展をお祈り致しまして報告と致します。ありがとうございます。

第五十四回九州外科学会・第五十四回九州小児外科学会・第五十三回九州内分分泌外科学会報告

第五十四回九州外科学会 会長

馬場 秀夫

第五十四回九州小児外科学会 会長

猪股裕紀洋

第五十三回九州内分分泌外科学会 会長

岩瀬 弘敬

九州外科学会、小児外科学会、内分分泌外科学会を、平成二十九年五月二十六日(金)〜二十七日(土)に、ホテルメルパルク熊本に於いて開催いたしました。幸い好天にも恵まれ、参加登録者数は過去最高の六二六名となり、盛会裏に終えることができました。

本学会は九州地区における重要な外科専門学会であり、若手外科医にとつては貴重な学会発表の登竜門となる会です。また単に研究発表にとどまることなく、

外科学の発展と教育に資するべく、これまで五十年以上の歴史が積み上げられて参りました。とくに今回は熊本地震の後、初めて行われる学会であり、震災時に人的、物的・経済的支援、ならびに精神的なサポートを頂いた、九州内の外科関連施設の皆様に恩返しをする場と位置付け、熊本大学の五つの外科教室が一丸となって準備を進めて参りました。

本会では外科の全ての領域をカバーすべく、三つの特別講演「敗血症性DICの最新の治療戦略」(遠藤格先生)、「乳癌診療の Bone Health」(高橋将人先生)、「肺癌における安全な鏡視下手術の導入と教育」(柳正和先生、今西直子先生)、

および、八つの共催セミナー「上部消化器がん治療の新戦略」(吉田和弘先生)、「胃癌・大腸癌薬物療法におけるエビデンスとプラクティス」(室圭先生)、「若手内視鏡外科認定取得者が教える認定のためのコッソー胃・大腸」(森田圭介先生、馬場研二先生)、「Liquid Biopsy による大

腸がん診療のパラダイムシフト」(鈴木浩一先生)、「大腸癌化学療法」(No Date) (植竹宏之先生)、「大腸癌の治療成績を伸ばすために」(宮本裕士先生)、「外科医の未来は明るいか?」(泉谷裕則先生)、「がん免疫療法・基礎と臨床」(川上尚人先生、陶山浩一先生) を執り行いました。いずれも、それぞれの領域をリードする先生からのご講演であり、最新の情報をアップデートできる貴重な研修の場となりました。

また、若手外科医を対象とした二つのハンズオンセミナー、「腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術のドライラポトリーニング」、「シミュレーターによるデルタ吻合および内視鏡下縫合・結紮手技の習得」を開催いたしました。さらに臓器ごとに七つの研修医セッションを行い、これから外科医を目指す先生に発表と白熱したご討議を行っていただきました。最後に「医療安全」をテーマとして、第二十五回日本外科学会生涯教育セミナー(九州地区)を共催いたしました。いずれの会場も熱気に溢れ、大変充実した学会となりました。

このほか、この学会のもう一つの役割である、外科関連の先生、メディカルスタッフの方々の交流の場として、情報交換会を企画いたしました。施設対抗クイズ大会では、おそろいのユニフォームを作って参加したチームもあり、また全く予想していなかったくまモンのぬいぐるみ争奪戦が起こるなど、本学会を越える